

## 文教厚生常任委員会 視察研修報告

〔期間〕10月25日～27日

○大阪府寝屋川市「まちの人材バンク」

・地域人材の発掘と活用を目的とした事業。  
 ・地域参加のきっかけとなったり、生きがいの場となった。地域の人との関わりや世代間交流もできるという効果が見られている。課題として依頼者と登録者のマッチングが難しく、事前の打ち合わせを十分にすることがある。

○大阪府阪南市「団塊世代のまちづくり参加後押し」

・団塊の世代に焦点をあて、新しいまちづくりの担い手として培った技術や能力を活かし地域活動や市政に参画するための支援体制の構築を図る。地域福祉課題解決やまちづくり推進事業に対して「地域

福祉活動助成金」を上限5万円として支援。

○岡山県玉野市「親学啓発パンフレット作成」

・家庭教育支援のための講座などを開催しても参加できない親にも読んでもらい、子育てについて振り返ってもらうという目的である。

この事業について、「おすすめの絵本」など参考になったという声も聞かれるようになったり、出前講座のなかに、パンフレットを活かした「親学」の講座を開設したりという活用が見られた。

○まとめ

3事業とも



▶行政視察

ソフト事業であったせいもあると思うが、市民協働の意識の高さが感じられた。

小城市でもボランテニア活動は盛んにおこなわれているが、ネットワーク化、システム化して市全域に広げていくためには、コーディネーター役としての行政の力が欠かせないと感じた。

## 広報編集特別委員会 視察研修報告

〔期間〕11月8日～9日

〔目的及び視察地〕

○議会広報

（長崎県時津町）

○市民と議会のつどい

（長崎県大村市）

時津町は長崎県中央部にある大村湾の南西部に面する人口3万人、長崎市のベッドタウンとして人口増加の町である。時津町議会広報委員会は6名体制で広報委員長は副議長が就任。広報誌の特長は議会閉会日の翌月の第3金曜日に発行している。またすべてカラー刷りで費用は小城市よりも安く出来ている。

大村市では議会改革での「市民と議会のつどい」について意見交換を行った。大村市は長崎県のほぼ中央に位置し人口9万2千人。現在も人口増加が続いている。「市民と議会のつどい」は平成19



▲行政視察

年改選後の議長が議会の活動が市民によく理解されない、自分達の活動をもっとオープンにして市民に知っていただく必要があるとして本格実施された。

住民との意見交換では、何で議会が否決したのかなど理解を得るようになった。小城市議会も議会改革は避けられない課題である。